

■ 当月のS&P MLP 指数の動き

11月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比▲1.4%と3か月連続で下落しました。

初旬は、MLP大手をはじめ、市場予想を上回る内容の7-9月期決算内容を発表するMLPが相次いだことなどから、上昇基調となりました。しかしながら、その後は、原油価格の急落やハイテク株の急落を背景に、投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから、MLPも売り込まれる展開となりました。

■ 過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)



■ 主要指標の動き

MLP: S&P MLP 指数、米国株式: S&P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	2018/11/30	2018/10/31	2018/8/31	2017/12/31	前月末比	3か月前月末比	前年末比
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	4,449.64	4,513.57	4,989.53	4,582.12	-1.4%	-10.8%	-2.9%
プライスリターン	1,394.21	1,432.15	1,594.40	1,550.13	-2.6%	-12.6%	-10.1%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	5,478.91	5,369.49	5,730.80	5,212.76	2.0%	-4.4%	5.1%
プライスリターン	2,760.17	2,711.74	2,901.52	2,673.61	1.8%	-4.9%	3.2%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	866.99	881.50	968.35	924.42	-1.6%	-10.5%	-6.2%
プライスリターン	486.42	497.37	547.58	533.41	-2.2%	-11.2%	-8.8%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,295.80	1,235.85	1,303.03	1,237.27	4.9%	-0.6%	4.7%
プライスリターン	316.51	302.69	321.66	313.62	4.6%	-1.6%	0.9%
米国ハイイールド債(ICE BofA Merrill Lynch・米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,261.25	1,272.80	1,286.52	1,262.20	-0.9%	-2.0%	-0.1%
プライスリターン	73.78	74.86	76.47	78.21	-1.4%	-3.5%	-5.7%
米国10年国債利回り							
	2.98%	3.14%	2.86%	2.40%	-0.16	0.12	0.58
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	50.93	65.31	69.80	60.42	-22.0%	-27.0%	-15.7%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	4.61	3.26	2.92	2.95	41.4%	58.2%	56.2%
米ドル(対円)							
	113.57	112.94	111.03	112.69	0.6%	2.3%	0.8%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ 当月の出来事いろいろ

- S&P MLP 指数の時価総額構成上位銘柄である「プレーンズ・オール・アメリカン・パイプライン」をはじめ、アナリスト予想を上回る7-9月期決算を発表するMLPが相次いだことが、11月初旬の上昇要因となった。
- 6日の米中間選挙に合わせて実施されたコロラド州での住民投票において、石油・ガス掘削を住宅地などから遠ざけることを義務付ける規制に関し、賛成が過半数に届かず拒否されたことも、関連MLPを中心として、市場の上昇を支える要因となった。
- WTI原油先物価格は、13日まで12営業日続落となり、13日に1バレル＝55.69米ドルと約1年ぶりの安値を付けた。さらに翌週以降も下落基調が続いたことから、28日には50.29米ドルと、2017年10月以来の低水準となった。
- 5日、米国は予定通り、イランに対して経済制裁の第2弾を発動。しかしながら、日本を含む8カ国・地域については、イラン産原油の輸入を当面認める（適用除外）と発表され、イラン産原油の供給が減少するのではないかとといったこれまでの見方が一転し、原油価格が下落する要因となった。加えて、OPEC（石油輸出国機構）の月報において2019年の需要が減少するとの見通しが示されたこと、そして、サウジアラビア人記者の殺害にサウジアラビア政府が関与したとされる事件について、同政府を批判してきたトランプ米大統領が同国との関係維持を優先する意向を表明し地政学リスクが後退したこと、さらには、サウジアラビアの産油量が過去最高を更新しつつあると示唆されたことなどを受け需給悪化懸念が一段と強まったことも、原油価格の下落ペースを加速させる要因となった。

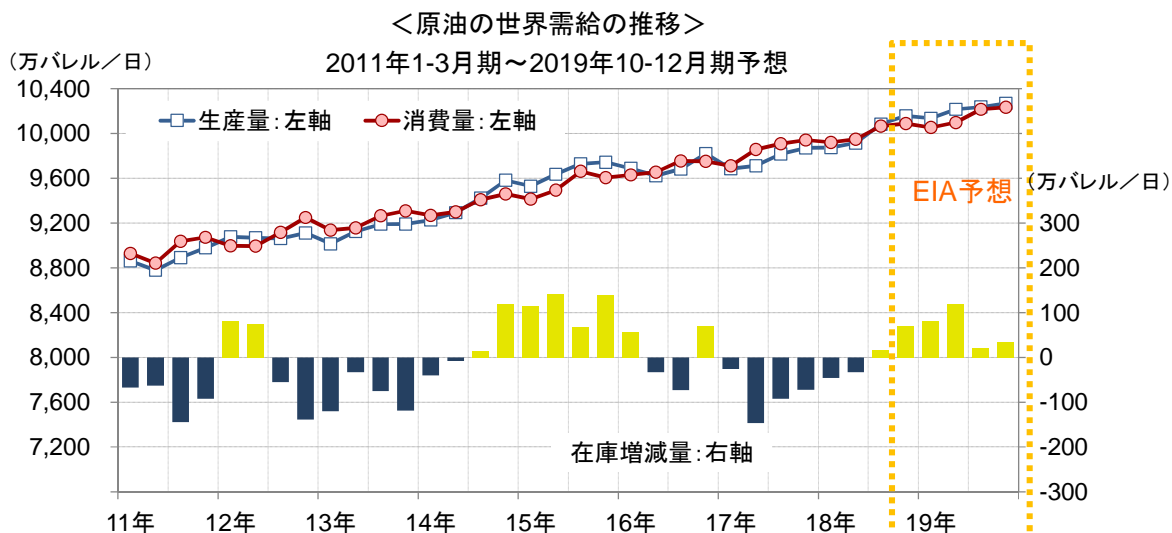
※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

■ 今後の注目点

- 12月6日にウィーンで開催されるOPEC（石油輸出国機構）総会などにおいて、2019年の原油減産について協議される予定となっており、仮にここで減産が決定されれば、原油価格が下げ止まるきっかけになると期待される。

■ 原油の世界需給動向

EIA（米エネルギー情報局）は、6日に公表した短期エネルギー見通しにおいて、米国の2019年の産油量予想を、10月時点から上方修正しました。中国の景気減速を背景に、今後、需要が抑えられるとの見方なども相まって、原油需給の悪化懸念を強める背景となりました。



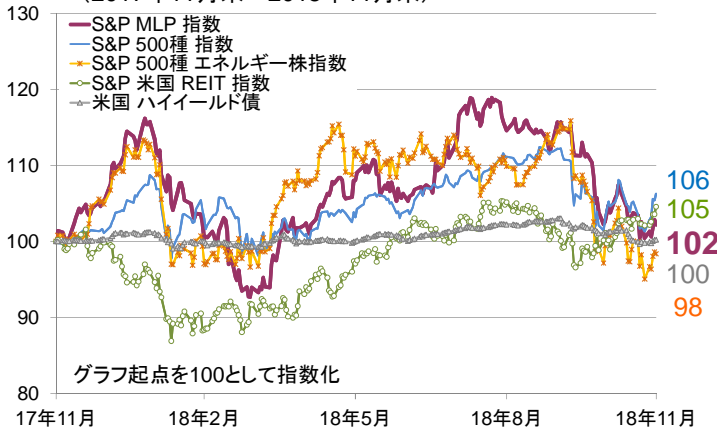
※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

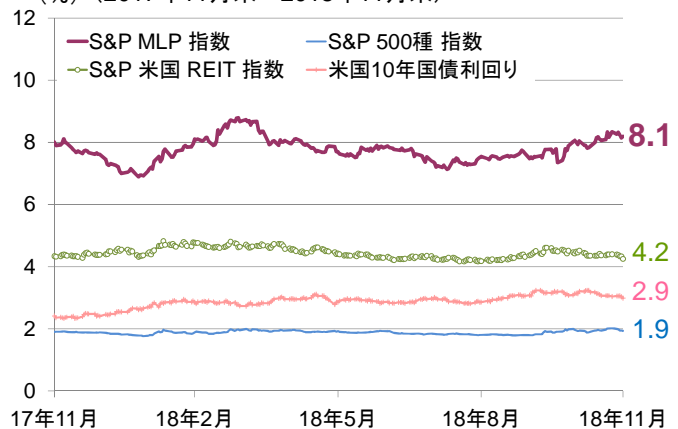
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2017年11月末～2018年11月末)



■各資産の利回り

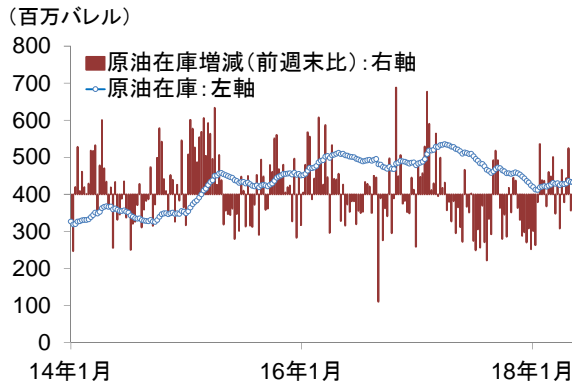
(%) (2017年11月末～2018年11月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

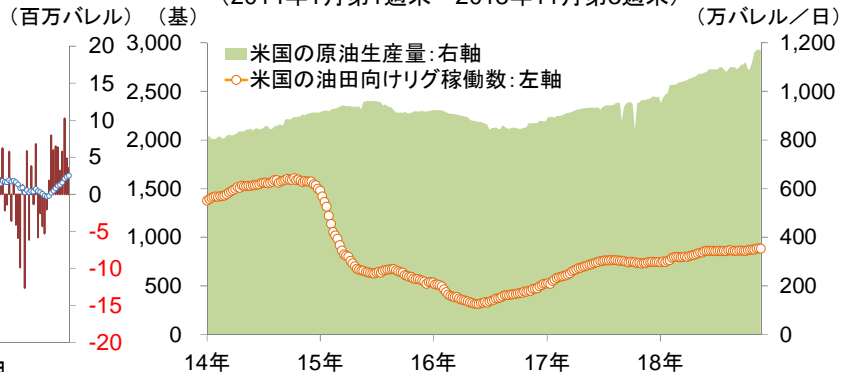
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2018年11月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2018年11月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2018年11月30日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。